

まちの発展と住みよさが続くための提言書

令和3年11月

千歳市第3期都市計画マスタープラン及び立地適正化計画策定市民会議

この提言書は、各分野で活躍する 19 名の委員がそれぞれの経験を生かし、私たちが住む千歳市が発展し、住み良さが続くためにどのようなことが必要なかを話し合いながらまとめました。

提言内容を実現し、より良いまちづくりをしていくためには、市が実行するだけでなく、私たち委員を含め千歳市に住んでいる全員が、当事者意識を持ち行動することが必要になります。

提言した目指す姿や方向性について、中には先進的な提言も含まれますが、20 年後、30 年後の都市のあるべき姿を見据え、千歳市の発展にとって、今後必要になると考えられるものとしています。

千歳市第 3 期都市計画マスタープラン及び立地適正化計画の策定にあたり、参考にしていただくことを期待しています。

令和 3 年 11 月

千歳市第 3 期都市計画マスタープラン
及び立地適正化計画策定市民会議

目次

はじめに	1
① 中心市街地の賑わいを高めるためには.....	2
② 市街地等の資源（千歳川、道の駅等）をもっと活かすには.....	4
③ 空港や支笏湖、農村との連携をもっと進めるには	6
④ 住みたいと思える景観のあるまちにするには.....	7
⑤ 進出企業（働く場所）をもっと増やすには.....	8
⑥ 便利な買い物環境をつくるには	9
⑦ 市民ニーズに対応した公園緑地づくりをするためには.....	10
⑧ コミュニティや居住密度を維持するには.....	11
⑨ 災害に備えたまちづくりを進めるには.....	12
⑩ 子育てしやすいまちづくりを進めるには.....	14

資料編 市民会議設置要綱
市民会議委員名簿
市民会議の経過

はじめに

【市民会議と提言書について】

千歳市が土地利用や道路、公園、下水道などの都市施設について、基本的な方向性を示す計画である都市計画マスタープラン及び居住機能や医療・福祉・商業等の都市機能の立地、公共交通の充実等に関する計画である立地適正化計画を策定するにあたり、私たち市民の意見を反映させるため、市内の有識者や関係団体、公募市民が集まり『千歳市第3期都市計画マスタープラン及び立地適正化計画策定市民会議』を組織しました。

会議はのべ6回にわたって開催し、日頃の生活や仕事の中でまちづくりについて感じていることや意見・アイデアを収集し、市長への『提言書』としてとりまとめました。



【検討テーマについて】

千歳市全体に対する課題や都市づくりの方向性について、様々な立場の委員から意見を収集し、話し合うため、まちの発展と住みよさが続くことを目的に10の検討テーマを設定しました。

【全体テーマ】 まちの発展と住みよさが続くための検討テーマ

<市民会議で話し合う、10のテーマ>

① 中心市街地の賑わいを高めるためには？

② 市街地等の資源(千歳川、道の駅等)をもっと活かすには？

③ 空港や支笏湖、農村との連携をもっと進めるには？

④ 住みたいと思える景観のあるまちにするには？

⑤ 進出企業(働く場所)をもっと増やすには？

⑥ 便利な買い物環境をつくるには？

⑦ 市民ニーズに対応した公園緑地づくりをするためには？

⑧ コミュニティや居住密度を維持するには？

⑨ 災害に備えたまちづくりを進めるためには？

⑩ 子育てしやすいまちづくりを進めるには？

① 中心市街地の賑わいを高めるためには

【現状・課題】

- これまで中心市街地では人口増加に伴う市街地拡大とともに若い世代が郊外に流出し、空き地、空き店舗、古い建物が目立ち閑散としている。最近ではコロナ禍の影響もあり、空き店舗活用の取り組みがなかなか進まない状況である。
- 中心市街地では集合住宅など新しい建物が増えており、新しく住む人、訪れる人のニーズをとらえたまちづくりが必要である。
- 中心市街地では集合住宅や宿泊施設が立地する一方で、ニーズの変化に伴い買い物目的の市民や観光客をターゲットにした集客機能が低下しており、多くの客が大型商業店舗に流れている。
- グリーンベルトはイベント時、賑わうが、イベントがないときは来る目的がないため、閑散としている。
- かつてアーケードのあった商店街のような歩行者中心の空間の魅力や店舗の専門性が失われ、賑わいが不足している。
- 特徴的なお店を“線”として繋ぐことやアートなどの統一テーマでイベントを開催するなど工夫が必要である。
- 新千歳空港に道外・国外から多くの観光客が訪れても、中心市街地には魅力ある店舗や施設が少なく、立ち寄りずに札幌などへ行ってしまふ。
- 「まちライブラリー」などが開設されていた旧再開発ビル(タウンプラザ)の閉館後、日頃まちなかに人が集まる「ハブ機能」となる施設がない。

【提 言（目指す姿や方向性）】

- ◆ 中心市街地が活性化するよう空き地・空き店舗等ストックの活用により、魅力ある空間を形成する。
- ◆ グリーンベルトでは、盆踊りやビール祭り、イルミネーション、定期的なキッチンカーを利用した飲食物・物品の販売など、日頃から人が集まる空間を形成する。
- ◆ 商店街からJR千歳駅までの動線を意識したまちづくりや空き地・空き店舗等の活用、魅力ある店舗の誘導、イベントの開催、アートなどによる感性に訴える空間づくり、歩行者天国としての活用などにより、魅力と活気ある空間を形成する。
- ◆ 若者や市外の人々のアイデアを賑わいづくりに積極的に生かせる環境づくりを検討する。

◆ 中心市街地への回遊を促すため、支笏湖・千歳川などの自然や空港などの千歳市独自の資源を連携させる。

◆ 市民や観光客が集まり滞留、情報交流できる、ハブ機能となる複合施設を整備し、市民活動を支援するコーディネーターを育成するなど、継続的に拠点機能の強化を図る。

② 市街地等の資源（千歳川、道の駅等）をもっと活かすには

【現状・課題】

- 市内には支笏湖や道の駅、千歳川のある市街地、埋蔵文化財・遺跡群など多くの魅力的な場所があるが、交通のアクセス・ネットワークが良くない。
- 新千歳空港インターチェンジを起点として支笏湖方面へアクセスするためには、市街地を経由しなければならないため、観光・周遊目的では使いづらい。
- 市内には、世界遺産登録のキウス周堤墓群などの遺跡や埋蔵文化財、千歳川でつながるアイヌと和人の交易の歴史など多くの歴史・文化遺産があるが、市内外の人にあまり知られていない。また、キウス周堤墓群周辺については、水道や電気など基盤整備が進んでいない。
- 市街地から支笏湖に向かう途中のダム、発電所等といったあまり知られていない景勝地が複数あり、資源が上手く生かされず、周知されていない。
- 千歳市は自衛隊のまちであり、特有の文化や見学スポットがあるが、千歳市特有の資源として生かされていない。（飛行機の写真が撮れる、自衛隊員が街を歩く風景、建物や防空壕 など）
- グリーンベルトなどが各種イベントの開催場所となっているが、もっと魅力的な空間づくり、賑わい創出に資する使い方を進める必要がある。
- 新千歳空港に着いた観光・ビジネス客の多くは、市街地に立ち寄りことなく、目的地に直行してしまう状況であり、JR千歳駅周辺の景観も印象的なものがない。市街地に立ち寄り、滞在したくなる魅力ある景観づくりなどの取組が必要である。
- 海外の空港では、空港周辺で MICE 施設、インキュベーション施設を設置している事例があり、観光だけでなく、学会やビジネス客の利用を想定したまちづくりを検討する必要がある。
- 道の駅サーモンパーク千歳は、水族館利用の来訪者が増えているものの、混雑期の駐車場の運用や渋滞への対応など、道の駅施設の集客面で更なる改善が必要である。

【提 言（目指す姿や方向性）】

- ◆ 道道泉沢新千歳空港線など道路のネットワークや交通手段の充実などにより、新千歳空港や支笏湖、キウス周堤墓群等の受け入れ態勢の強化や地域資源間の周遊性を高め、連携を強化する。
- ◆ 道の駅サーモンパーク千歳の観光拠点としての機能強化を見据え、特産品の販売や千歳川の特産・歴史・文化を生かした展示の充実などにより魅力を高め、人の訪れや滞在を促すとともに、周辺地域に配慮した道路環境や駐車場を整備する。

- ◆Maas の導入を検討するなど、観光客や学生など様々な人にわかりやすく市内移動がしやすい公共交通サービスを確保する。
- ◆歴史を説明するガイドの育成など、キウス周堤墓群を魅力的な資源として活用する市民レベルの取り組みを進める。
- ◆王子製紙の発電所などのビューポイントや遺跡、工場見学、自衛隊など千歳らしい歴史・文化に触れる立ち寄りスポットなどで、施設見学や食、体験型のイベントを行うなど、地域資源の連携・活用を強化する。
- ◆中心市街地のイベント空間では、各主体のイベントや年間行事を切れ目なく開催するなど、にぎわいづくりに資する活用を進める。
- ◆グリーンベルトやその周辺では、川の景観や食、桜、アートの活用など、人が集まり、楽しめる空間形成を図る。
- ◆市街地の駐車場や観光ポイントから市街地へアクセスする道路の整備、まちの顔となるJR千歳駅周辺の景観形成を図るなど、観光客やビジネス客が市街地に立ち寄り、滞在しやすい空間形成を図る。
- ◆JR 南千歳駅周辺は、学会やビジネス客をターゲットとした MICE 施設、インキュベーション施設を誘致するなど、新千歳空港に近接する立地を生かした拠点の形成を図る。

③ 空港や支笏湖、農村との連携をもっと進めるには

【現状・課題】

- 新千歳空港インターチェンジや新千歳空港ロジスティクスセンターの整備による空輸を含めた物流機能の集積や今後の継続的な発展のため、担い手である運送事業者へのサービス機能を検討する必要がある。
- インバウンド客の減少、個人向け旅行客の増加など旅行需要が変化している。また、支笏湖や農村など市内観光地の周遊ニーズを踏まえ、空港に帰る余剰時間のある観光客が中心市街地やキウス周堤墓群等へアクセス出来るよう二次交通の充実・利用促進を図る必要がある。
- キウス周堤墓群の市民への周知・理解が進んでいない。また、市内の観光資源についての周知が不足している。

【提 言（目指す姿や方向性）】

- ◆新千歳空港インターチェンジ周辺などに物流・運送業従業者（トラック運転手）の休憩施設等の誘致や物流倉庫、会議場などが複合化した大型物流拠点の建設を進めるなど、拠点機能の強化を図る。
- ◆市内の観光・周遊エリアにおいて、観光型や市民型等ターゲットを明確化した MaaS の導入を検討するなど、二次交通活用の取り組みを検討する。また、各々の立ち寄りポイントに案内の設置やインターネット回線の確保など、情報提供の基盤づくりを進める。
- ◆キウス周堤墓群において、観光のための情報提供施設の設置や地域との連携、ガイドの育成、公共交通の充実など、環境の整備を図る。
- ◆キウス周堤墓群の利活用による地域活性化の関心・機運を高めるため、インフルエンサーの起用、小学校での学習機会に積極的に活用するなど、戦略的に市民への広報・周知活動を行う。

④ 住みたいと思える景観のあるまちにするには

【現状・課題】

- 住みたいと思える魅力や景観のあるまちにするためには、人材が重要であり、若い人が移住し、イベントや地域おこしなど、地域への関わりが持てるようになることが重要である。
- 若い人が地域と関わりを持つための場として、タウンプラザのまちライブラリーなどがあったが、現在は閉館しており、若い人や子ども達が遊ぶなど、滞留する場所がない。また、地域と関わりを持てる場として、町内会活動等へ若い人材を取り込む活動が必要である。
- 再整備したグリーンベルトの周辺では、グリーンベルトに顔が向くように店舗が建っておらず、賑わいが不足している。
- JR千歳駅前の街並みは昔に比べ近代的になったが、ランドマーク的な物などが足りない。

【提 言（目指す姿や方向性）】

- ◆ 魅力的なまちとするため、市民、事業者、行政が一体となって、市民が集まり、滞留、活動できる空間の創出を図る。
- ◆ 人が集まるグリーンベルトや親水空間とともに商店街などでは、人々の活動や賑わいが伝わるよう、良好な景観形成や憩いの空間づくりを図る。
- ◆ 人が集まるJR千歳駅前にランドマークやモニュメントを設けるなど、まちの顔となる魅力的な景観形成を図る。

⑤ 進出企業（働く場所）をもっと増やすには

【現状・課題】

- 千歳市は災害が少なく、企業進出がしやすい土地であり、若い優秀な人材を輩出する公立千歳科学技術大学もあることを生かし、更なる企業誘致を進める必要がある。
- 市内の若い人材を、大手企業ばかりに就職させるのではなく、地域に根差した地場の中小企業にも就職できるような配慮も必要である。
- 働く子育て世代、若い世代が、土地価格の上昇から住宅を購入できないことなどを理由に市外に居住するケースがみられ、市内への居住に結びついていない。
- 企業進出や転勤を契機に千歳市に住む方が、千歳の歴史や文化に触れる機会が少ない。また、千歳市の住みやすさについての周知が不足している。
- 泉沢地域では、臨空工業団地の企業誘致を進めている一方で、隣接する住宅地では人口減少、高齢化が進んでいる。

【提 言（目指す姿や方向性）】

- ◆工業団地の分譲地について、人のネットワーク（東京千歳会など）や立地している企業、空港、大学との連携など、千歳市ならではの交通網等の利点を生かし、道内外の企業の誘致やサポートを進める。
- ◆企業誘致と合わせ、従業員には自然・歴史・文化への触れ合いを通して、まちへの愛着を高めてもらい、移住体験機会の提供や土地・住宅を購入しやすくすることなどにより、定住促進を図る。

⑥ 便利な買い物環境をつくるには

【現状・課題】

- JR千歳駅近くに大型商業店舗や各地区に商業店舗があるが、様々な買い物ニーズや娯楽、交流など買い物以外の用事も含めて、1度に対応できるエリアとなっていない。
- 千歳市ならではの個性的・人気のある店舗もあるが分散している。また、地産地消の商品を扱う店舗も少なく、千歳市の特色が活かされていない。
- 魅力的な店舗を集積させようとしても、広くてアクセスの良い立地条件には限りがある。
- ニューサンロード商店街や仲の橋商店街などの中心市街地の商店街において、利用客の減少や店舗が撤退する中、近年は空き店舗の活用や地産地消などの取り組みが進められているものの、さらなる活性化が求められている。
- 空き店舗を活用することについて、賃料が高いなどの理由で、活用が継続していかないことが懸念される。
- 市街地の駐車料金は1日の最大料金が設定されておらず、長時間の買物、滞在には利用しにくい。
- 泉沢などの郊外の住宅地では、店舗が撤退することを避けるため、地域での買い物利用促進の取り組みを進めている。

【提 言（目指す姿や方向性）】

- ◆ 中心市街地の商店街では魅力的な店舗や交流・文化施設の複合化、もしくは単体店舗の集合化、店舗の複合立地の起爆剤・呼び水となる核店舗の誘致、若い出店者へのサポートといったような、買い物、交流など多様な利用に対応できる、賑わいのあるエリアの形成を図る。
- ◆ JR千歳駅周辺に買い物以外にもカフェスペースや飲食店、小さな図書館などの滞留機能を複合化するなど、便利で賑わいのある空間形成を図る。
- ◆ 中心市街地の駐車場について、適正な料金設定を促すなど、買い物環境の向上を図る。
- ◆ 買い物ついでに地元スイーツの食べ歩きが楽しめることや地産地消に取り組むこと、街を大きなスーパーに見立てルートで廻れるように店舗が連携するなど、千歳らしさや魅力を高めるエリアの形成を図る。

⑦ 市民ニーズに対応した公園緑地づくりをするためには

【現状・課題】

- 市内の公園は、小さな子どもやお年寄りには利用しているが、若い世代が利用していないことから、様々な利用方法を周知することで、幅広い年代の利用を促し公園に親しんでもらう必要がある。
- グリーンベルトは、緑が少なく、イベント行事に使いにくい施設配置であること、千歳川沿いのくつろぎ空間が足りない状況であることから改善が必要である。また、最近の若者の活用ニーズや IT 技術との連携により利活用を促す必要がある。

【提 言（目指す姿や方向性）】

- ◆ 市民からの意見を聞くなど、市民ニーズに対応した公園緑地づくりを図る。
- ◆ IT 技術を活用した公園緑地の情報提供を検討するなど、幅広い年代、特に若い世代への公園利用促進のための啓発を図る。
- ◆ 川沿いの親水空間や遊歩道について、景観に配慮し、安全で利用しやすい空間形成を図る。

⑧ コミュニティや居住密度を維持するには

【現状・課題】

- 気軽に交流するコミュニティ活動の場所が全体的に少なく、マンション・アパートの増加によりコミュニティの希薄化や町内活動の担い手が不足している。
- イベントを開催する場所は中心市街地に集中している状況である。
- 既存の取り組みでは中心市街地の文化センターやタウンプラザ、商店街、町内会などでコミュニティ活動が展開されているが、場所の確保や各世代への周知方法を工夫しながら維持・継続を図っていく必要がある。

【提 言（目指す姿や方向性）】

- ◆ 青葉公園では、図書館にカフェや交流機能を付加するなど、スポーツ、学習、コミュニティ活動の拠点機能の強化を図る。
- ◆ 商店街などの市内各地にコミュニティ活動の場となるカフェなど、交流機能のある小規模な施設が立地するエリアを形成する。
- ◆ 居住密度の維持を図るため、賃料の優遇といったような若い世代への支援策や活動に対する優遇措置のしくみづくりなどにより、地域の利便性向上を図る。

⑨ 災害に備えたまちづくりを進めるには

【現状・課題】

- 市内の自主防災組織の組織率は上昇しており、出前講座も増えているが、組織メンバーの高齢化が進み、働き手世代の参加促進が必要である。また、組織により防災活動に格差がみられる。
- 胆振東部地震では、ホテル宿泊者、空港に向かう観光客の待機場所として、スポーツセンターや地域の避難場を臨時的に使用したが、地域住民向けの備蓄品の提供について問題提起がなされた。
- 観光客への対応や新たな感染症への対応も見据え、現在の避難所以外に、市内宿泊施設にも収容避難所の役割を担えるよう、体制づくりが必要である。
- 市内のインフラ施設は順次耐震化や非常電源確保などの防災対策が必要である。
(鉄道高架部の耐震化、道の駅の防災機能の拡充、避難所等の自家発電システム整備など)
- 支笏湖方面や泉沢向陽台のアクセス道路は、災害で寸断されると地域が孤立する懸念がある。
- 災害時の情報提供は、スマートフォンなどのデジタルな情報だけでなく、停電時も想定しアナログな手段も重要である。また、災害時の情報提供手段として有効と考えられるコミュニティFMが千歳市にはない。
- 胆振東部地震の時には、直接的な危険がなくても、家族の不在や余震が心配などの理由で最寄りの避難所に市民が集まるケースもあった。身近なところに安全な場所、情報を得られる場所を確保することは重要である。
- 日本では、身近にあるコンビニエンスストアや薬局などの店舗が地域の安全確保に貢献しており、災害についても連携が必要である。
- 公立千歳科学技術大学では、胆振東部地震時のデータ分析を進めており、連携することが有効と考える。また、防災に関して企業や自衛隊との連携は重要である。

【提 言（目指す姿や方向性）】

- ◆自助・共助についての普及啓発やコミュニティ・町内会などの「つながり」づくり、各町内会の情報交流を促すなど、複数の町内会で協力・連携する防災体制の強化を図る。
- ◆災害時の観光客への対応、コロナ禍での密集回避の観点などを踏まえ、市内の宿泊施設、空港の活用など、防災体制を構築する。
- ◆水道施設や駅の耐震化、交通機関寸断の際の代替交通手段の確保、蓄電設備の確保、災害時の河川やメガソーラーからの水資源・電力供給など、各施設における様々な防災対策を検討、推進する。
- ◆防災ラジオの配布、コミュニティ FM の活用、避難場所を案内する立て看板の設置など、デジタル機器に頼らない情報伝達手段の普及に努める。
- ◆各地域に立地するコンビニエンスストアなどの身近な店舗・施設を災害時の情報拠点とするなど、連携体制等の構築を検討する。
- ◆公立千歳科学技術大学や企業、自衛隊、市が連携し災害時に備えた連携体制を構築するなど、千歳市ならではの防災体制を検討する。

⑩ 子育てしやすいまちづくりを進めるには

【現状・課題】

- 子育て世代のコミュニティを作る場所・交流施設が少なく感じられる。市民の声を聴きながら今ある情報ツール・サイトのほかに子育て支援のための各種のイベント活動や支援制度、情報交流を広げていく必要がある。
- 小学校のアイヌ文化の学習、幼稚園での自然環境を活かした学習、大学でのまちづくりに関する出前講座など、千歳市の特色を活かした学習活動を今後も進めていく必要がある。
- 宅地の造成や地域の子供たちの成長により、学校区内の生徒・児童数は変動するため、学校区間の生徒・児童数の不均衡と学校施設とのミスマッチが生じる懸念がある。
- 市が開催する会議などは、男性が多く、女性の意見があまり出てこない。

【提 言（目指す姿や方向性）】

- ◆ 青葉公園内に子育て世代の情報交流や高齢者との交流の場となるカフェなど、子育て・多世代が交流できる拠点を形成する。
- ◆ 市内の各教育機関において、自然・歴史・文化を活かした千歳らしい教育内容を取り入れた学習活動を実施し、地元を愛する市民を増やす。
- ◆ 様々な立場の市民と協働で今後の市街地の人口動向や生徒・児童の希望に対応した学校施設及び学校区の再編を検討する。
- ◆ 科学系の大学や企業が集まっていることから、市の内外に向け、理工系に強い人材育成ができるまちとして PR することや子育て支援環境づくりのため、女性の意見を聞くことができるよう意見を聞く場を作るなどの活動・取組を検討する。
- ◆ 日頃のイベントやコミュニティ活動を継続・充実し、子ども達や親世代にとって顔の見える交流環境を構築・維持する。

千歳市第3期都市計画マスタープラン及び立地適正化計画策定市民会議設置要綱

(設置)

第1条 都市計画法(昭和43年法律100号)第18条の2の規定に基づく、千歳市の都市計画に関する基本的な方針(以下「都市計画マスタープラン」という。)及び都市再生特別措置法(平成14年4月5日法律第22号)第81条に基づく立地適正化計画の策定に関し市民等の意見を反映させるため、千歳市第3期都市計画マスタープラン及び立地適正化計画策定市民会議(以下「市民会議」という。)を設置する。

(所掌事務)

第2条 市民会議は、次に掲げる事項を検討するものとする。

- (1) 都市計画マスタープラン及び立地適正化計画策定に関すること
- (2) 全体構想に関すること
- (3) 地域別構想に関すること
- (4) その他計画策定に関すること

(組織)

第3条 市民会議は、委員20名以内をもって組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから、公募による選考及び団体等からの推薦によるものとし、委嘱は行わない。

- (1) 学識経験を有する者
- (2) 農業、商工、観光、福祉関連団体
- (3) その他関係する団体
- (4) 市民等(市内に通勤又は通学する者を含む。)

3 委員に対する報酬は、支払わない。

(任期)

第4条 委員の任期は、任命の日から、第2条に定める所掌事務が終了した時までとする。

(座長及び副座長)

第5条 市民会議に座長及び副座長を置く。

- 2 座長及び副座長は、委員が互選する。
- 3 座長は、市民会議を代表し、会務を総理する。
- 4 座長は、市民会議を招集し、会議の議長となる。
- 5 副座長は、座長を補佐し、座長に事故あるとき、又は座長が欠けたときは、その職務を代理する。

(庶務)

第6条 市民会議の庶務は、企画部まちづくり推進課において行う。

2 市は、資料、情報等を提供し、オブザーバーの招へい等、市民会議を支援する。

(委任)

第7条 この要綱に定めるもののほか、市民会議の運営に関し必要な事項は、座長が市民会議に諮って定める。

附 則

この要綱は、令和2年 8月 7日から施行する。

市民会議委員名簿

区分	所属	職	氏名	備考
学識経験を有する者	公立大学法人 公立千歳科学技術大学	特任教授	川名 典人	座長
農業、 商工、 観光、 福祉関連 団体	千歳市農業委員会	会長職務代理者	平沖 道德	
	千歳商工会議所	専務理事	鈴木 隆夫	副座長
	千歳市商店街振興組合連合会 (インディアン水車通り商店街振興組合)	副理事長	入口 浩一郎	
	千歳工業クラブ	副代表幹事	三ツ野 仁	
	千歳建設業協会	副会長	中山 千太郎	
	千歳の観光を考える会	企画運営部会 部会長	鈴木 靖彦	
	社会福祉法人 千歳市社会福祉協議会	常務理事	三崎 直彦	
その他 関連する 団体	ちとせ環境と緑の財団	総務課総務係長	須貝 陽子	
	北海道旅客鉄道株式会社	副駅長	小野 克広	
	北海道エアポート 株式会社	総務本部 地域共生部長	平池 暁	
	千歳相互観光バス 株式会社	専務取締役	沼田 聖	～令和3年 5月13日
		常務取締役	鈴木 隆之	令和3年 5月14日～
	北海道開発局札幌開発建設部 千歳道路事務所	所長	瓜生 和幸	
	北海道札幌方面 千歳警察署	地域・交通官	藤澤 宏	
	千歳市防災 マスターリーダー会	事務局長	泉澤 豊和	
市民等	千歳市町内会連合会	理事	伊藤 宏之	
	市民公募		中塚 茜	
	市民公募		齊藤 成哉	
	市民公募		内藤 陸斗	

市民会議の経過

	開催日程	参加者	議題等
第1回	令和3年2月26日(金)	16名	(1)市挨拶、委員任命、座長選出 (2)オリエンテーション (3)今後議論すべきテーマの頭出し ・10の検討テーマからA、B、C、D各グループで重点的に話し合うテーマについて討議を行った。
第2回	令和3年 3月9日(火)(Aグループ) 3月11日(木)(Bグループ) 3月22日(月)(Cグループ) 3月11日(木)(Dグループ)	15名	(1)検討テーマについて討議
第3回	令和3年 3月29日(月)(Aグループ) 3月22日(月)(Bグループ) 3月30日(火)(Cグループ) 3月22日(月)(Dグループ)	16名	(1)検討テーマについて討議
第4回	令和3年5月14日(金) ～5月31日(月) ※書面開催	15名	(1)第1回～第3回市民会議の全意見を配布資料にて共有 (2)意見の共有を踏まえて、以下の質問内容を委員が「質問シート」に回答、事務局に提出いただいた。
第5回	令和3年8月19日(木) ～9月3日(金) ※書面開催	16名	(1)まちの発展と住みよさが続くための検討テーマに関する提言書(草案)を配布資料にて共有 (2)①～⑩の検討テーマごとに、加筆修正したい内容について、委員が「質問シート」に回答、事務局に提出いただいた。
第6回	令和3年10月25日(月)	14名	(1)まちの発展と住みよさが続くための提言書の修正案について (2)提言書の決定について
市長 提言	令和3年11月29日(月)	座長 副座長	まちの発展と住みよさが続くための提言書を市長へ提出